



水道橋畔発

Transmission from SUIDOUKYOUHAN

第 19 号 平成 25 年 12 月

巻頭言：明治39年 後藤新平の挨拶

病院長 矢島安朝



「この学校に職を奉ずるものは、血脇先生に負けないように成功、不成功にこだわらず力を尽くすことを学んでいただきたい」これは、明治39年、水道橋三崎町に本学の白亜の校舎が完成した落成式において、血脇先生の友人として出席された後藤新平の挨拶の言葉です。この後、東京歯科大学が幾多の困難（この白亜の校舎も17年後には関東大震災によって焼失し、すべての資産を失う）を無事に乗り越えられたのは、血脇イズムとこの言葉の力ではなかったのかと思っています。いつの世でも名言、名演説の言葉の力は非常に大きなもので、時代を超えて多くの人々の心を動かし、心によって人々は行動を起こし、これらの行動が集結して困難を可能に変えて行くのだと感心しています。

本学は、今、この時と同じように、同じ水道橋の地に移転してまいりました。今こそ、後藤新平の「失敗を恐れず、全力を尽くせ」というエールを心の中心におき、私達教職員一同が一致団結して、未来に向かった行動を起こす時であると自覚しております。

現在水道橋病院は一期移転計画を無事に完了し、最後に開設となった高度歯科医療センター保存科・補綴科が9月より本格稼働いたしております。もちろん、ここには補綴科の櫻井教授、佐藤教授、保存科の齋藤教授、古澤教授、村松教授も千葉校舎から移られ、すでに診療を開始されています。これで3階には口腔インプラント科と合わせて、高度歯科医療センターが完成したことになります。このセンターでは、最新の、より高度で、専門性の高い歯科医療を多くの患者さまに提供できるよう協力して運営していく予定ですので、何卒宜しくお願

申し上げます。

今、水道橋病院が目指しているものは、患者中心の歯科医療の実践であります。その中でも特に、患者サービスに関しましては、今までの大学病院に最も不足していた部分であると反省しております。現在、受付対応、医局員の身だしなみや態度、長い待ち時間など多くの問題点が明示され、これらを改善するための意識改革、教育、システム変更など急ピッチで進行しております。先生方からご紹介いただいている大切な患者さまが、気持ちよく通院していただけるよう、教職員一同、誠心誠意努力して参りたいと思いますので、宜しく御協力の程お願い申し上げます。

新たなスタートを切った補綴科について

有床義歯補綴学講座 櫻井 薫



水道橋病院は2007年6月に保存科、補綴科および総合歯科が「総合歯科」に統合されましたが、6年ぶりに補綴科が高度歯科医療センター内に復活しました。その中には、特診とその専用受付や待合がありますので、各界の著名人や名士が、他の方の目を気にせずに来院できる環境にあります。そのような方々を是非とも高度歯科医療センターの補綴科に紹介していただきたく思います。紹介された患者さんには周囲の大学病院では味わえないような対応でお迎えいたしますので、患者さんたちは必ず満足していただけるでしょう。

どのような診療内容を提供できるかといいますと、まず世界で最初に装着したナノジルコニア（Ce-TZP / Al₂O₃ ナノ複合体）床があります。これは通常のジルコニアが持つ低温劣化がありません。精度や装着感もコバ

東京歯科大学水道橋病院の理念「思いやりの心による医療」

ルトクロム床より良く、総義歯などの大型補綴装置の口蓋板や大連結装置に有効です。当講座で開発した二酸化チタンの義歯へのコーティング法（TDCoating法）による義歯もあります。義歯にTDCoatingすると義歯の表面は超親水性に変化し、微生物が付着しにくくなります。また食塊は水洗で簡単に除去できます。この技術は高齢者には福音となります。さらに、数回の来院（短期間）で義歯装着まで行う技術もあります。CAD/CAMを利用しての義歯の製作も可能です。

診療は、日本補綴歯科学会専門医および日本老年歯科医学会専門医が中心となって行います。また専門医取得を目指す大学院生や専門専修科生をOn-the-job trainingで鍛える場でもあります。同窓の先生方にも専修科生になっていただき、実際の患者さんを一緒に診療することも可能です。

水道橋の地に復活して生まれ変わった補綴科へご期待ください！

クラウンブリッジ補綴学講座 佐藤 亨



クラウンブリッジ補綴学講座の主任教授を務めています佐藤亨です。

東京歯科大学水道橋病院の3階に高度先進医療センター保存科・補綴科が6月にオープンし、それに伴い9月より本格的な診療体制として稼働しています。

当センター補綴科は櫻井 薫教授の有床義歯補綴学講座と私どものクラウンブリッジ補綴学講座のスタッフが診療担当しています。教育は有床義歯とクラウンブリッジと専門教育領域が分かれますが、外来診療においては両講座医局員が皆で補綴診療を担当しています。

私事ですが一昨年まで日本歯科審美学会の第8代目の会長を務めさせていただきました。ご存知かと思いますが、日本歯科審美学会は現在会員数約4300名を越



6月1日診療室オープン

え、また学会が認定したホワイトニングコーディネータが約4000名に達する学会で、当講座の先々代の教授の羽賀通夫先生が初代会長を務めたクラウンブリッジ補綴学講座には関連の深い学会です。

そのような経緯もあり“歯科審美＝ホワイトニング”という色彩感覚のみでなく、歯科補綴領域での歯科審美すなわち“機能を伴った歯科審美”をめざした診療を行っております。補綴は先生方の日常臨床で欠かすことのできない診療行為ですが、最近は患者さんの要求レベルも高く、すべての患者さんに満足いく診療行為を行うことが難しくなってきていると思います。我々の臨床においても同様な状況ですが、必要があるようでしたら先生方へのアドバイスあるいはご支援が出来ればと考えます。先生方からのご要望は教職員一同で対応させていただきたいと思っております。

新たなスタートを切った保存科について

歯周病学講座 齋藤 淳



平素より水道橋病院の診療にご理解とご協力を賜り、御礼申し上げます。大学の移転は着々と進行しておりますが、その中で、高度歯科医療センター保存科・補綴科は平成25年6月1日に運用を開始いたしました。千葉病院保存科における診療体制に大きな支障をきたすことのないよう、歯科保存学講座および歯周病学講座からまずは数名ずつ、本務教員を兼任として配置しました。補綴科および総合歯科の先生方と協議を重ねながらシステムを構築し、水道橋で新たなスタートを切ることができました。9月からは大学院生も水道橋に移り、活動を開始しております。

全面改修された3階の診療室では、補綴科と保存科の医局員が一緒に診療しておりますし、同じフロアには



保存科・補綴科診療室入り口



診療室風景

口腔インプラント科もございますので、これまで以上に相互のコミュニケーションが向上しています。他科との連携を強めた診療体制のもと、それぞれの専門性を生かした患者中心の診療を心がけてまいります。

これからの水道橋病院は大学病院として教育・研究への対応もさらに重要になります。平成26年4月からは、学生の臨床実習をはじめとする教育についても、より一層充実したものにしていかなければなりません。マンパワーはまだ十分とは言えませんが、千葉病院の状況を見ながら体制を整えてまいります。また臨床研究も適切に展開していきたいと考えています。

水道橋への移転が成功するためには、地域の先生方との連携が非常に重要となります。今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

歯科保存学講座 古澤成博



大学の水道橋移転も着々と進行し、今夏には多くの医局員や事務の方々の勤務地が稲毛から水道橋に変更になりました。私は、本年3月末日まで水道橋の口腔健康臨床科学講座に所属し、水道橋病院副院長を務めさせてもらっておりましたが、

4月1日付で歯科保存学講座主任教授を拝命致しました。それに伴いまして、2階の総合歯科から本年新たにオープンいたしました、3階の「高度歯科医療センター保存科・補綴科」に移動して診療を行うことになりました。私の専門は歯内療法ですが、総合歯科に在籍していた時から、多くの患者さんを御紹介いただきました。因みに私宛の御紹介状を持参した患者さんは、一昨年度が181名、昨年度が128名でした。多くの患者さんの御紹介をいただくことは大変ありがたい反面、なかなか御紹介医に返書も書けず、なかなか治療も進まないという状況にも陥りがちで、先生方には大変ご



診療台

迷惑をおかけいたしております。この場を借りてお詫びを申し上げます。但し、治療は責任を持って行い、治療を確認してからお返しいたしておりますので何卒ご安心ください。

さて、「高度歯科医療センター保存科・補綴科」では、千葉から精鋭の医局員を集めて、高度歯科医療センターの名に恥じないレベルの高い治療を行うべく努力しております。保存、補綴の教授専用のチェアも完備しており、難症例やVIPの御紹介患者さんを受け入れる体勢も整いました。今後は地域の受け皿としてのみならず、全国からの受け皿として、さらに充実させてまいりたいと思っております。保存科では、難治性の根尖性歯周炎を代表とした歯内療法領域の疾患のみならず、侵襲性の歯周炎や歯周組織再生療法の適応となる患者さんなど、「高度歯科医療センター保存科」宛に御紹介をいただければと思います。また、あわせて「高度歯科医療センター補綴科、インプラント科」とも強力的に連携いたしておりますので、各科にまたがる複合的な症例の患者さんにつきましても、遠慮なく御紹介をいただきたいと存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

歯科保存学講座 村松 敬



私は1991年(平成3年)に本学を卒業後、1995年(平成7年)に病理学講座の大学院を経て、同講座の助手、講師として教育、研究、診断に従事してきました。平成11年(1999年)から13年(2001年)にはハーバード大学歯学部

にて診断、研究を行う機会をいただきました。その後、病理学講座に勤務しておりましたが、平成23年(2011年)には本学臨床検査病理学講座講師、鶴見大学歯学部病理学講座准教授として勤務し、平成25年(2013年)4月に本学の歯科保存学講座教授として赴任し、9月に

水道橋病院に勤務しております。

当院では保存科にて歯内療法を中心に診療にあたっておりますが、歯髄は可及的に残すこと、抜髄根管を感染根管にしないこと、根尖性歯周炎が治りやすい環境を作ることが心掛けています。また当科では通常の感染根管治療あるいは根管治療を何回行っても治癒に至らず、難治性根尖性歯周炎と診断される患者さんも当科には多く紹介、来院されます。当科といたしましても歯科用実体顕微鏡などを駆使することで原因説明をはかり、治癒に向かう環境を作ることが可能な限り努力いたします。また場合によっては歯根尖切除や抜歯が適応となる場合がありますが、その際には症例を検討するために術前の画像検査や術後の病理組織検査の結果をまとめた書類を作成し、御紹介いただいた先生にお送りするようにしたいと考えております。先生方と一緒に患者さんを診ていけるように致しますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第12回 東京歯科大学水道橋病院 症例報告会

総合歯科 細川壮平

平成25年7月25日(木) 午後6時30分～

医療連携の一環として開催されました本会は、日常臨床でよく遭遇する糖尿病について、口腔との深い関係性に焦点を当て「糖尿病、理解を深め健口管理」というテーマのもとに開催されました。

「歯周病と糖尿病の関わりー歯周病専門医の立場からー」という演題で口腔健康臨床科学講座の渋川義宏非常勤講師が、糖尿病と歯周病の相互関係や臨床上の注意点についての解説がされました。続いて東京医科歯科大学難治疾患研究所の林 丈晴准教授より「増加している糖尿病患者をいかに診るかー合併する多臓器障害と感染症



高野正行副院長による講演

の管理ー」という演題で糖尿病がもたらす様々な臓器障害の危険性や日常臨床における留意点などを医師の立場から講演していただきました。また、口腔インプラント科の関根秀志准教授より、近年応用頻度が高くなりつつあるインプラント治療について「要注意！糖尿病とインプラント治療」という演題で、治療上必要な医療従事者と患者の相互

理解の重要性について解説されました。更に「糖尿病などの合併症を有する患者の抜歯と観血処置の留意点」という演題で口腔外科の高野正行准教授から日常臨床における注意点と、高頻度に遭遇する抗血栓治療患者、BP系薬剤服用患者、喘息患者への鎮痛剤使用上の注意点についても解説されました。会場からは活発な質疑がされ盛況のうちに閉会となりました。ご参加いただきました多くの先生方には、この場をお借りして感謝申し上げます。

年末年始の診療について

年末は12月28日(土)まで平常に診療いたします。年始は1月6日(月)より診療開始です。なお休診中は、本院へ通院中の患者さまに対してのみの緊急オンコール態勢となりますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

※患者さまには各科の直通電話番号をお知らせさせていただきます様をお願いします。

東京歯科大学水道橋病院 直通電話番号(各科受付)一覧	
総合歯科	03-5275-1721~2
保存科・補綴科	03-3262-3425~6
口腔インプラント科	03-5275-1760
小児歯科	03-5275-1723
障がい者歯科	03-5275-1723
矯正歯科	03-5275-1724
口腔外科	03-5275-1725
歯科麻酔科	03-5275-1851
眼科	03-5275-1856
内科	03-5275-1926
放射線科	03-5275-1953
FAX(各科共通)	03-3262-3420

水道橋病院 診療案内	
初診受付	平日、土曜とも 午前9時から午前11時
診療時間	平日 午前9時から午後5時 土曜 午前9時から午後12時
休診日	第2土曜、日曜、祝日、 本学創立記念日(2月12日)、年末年始

水道橋畔発編集委員

編集委員長 片田英憲

編集委員 大多和由美、高野正行、山下秀一郎、
仁科牧子、関根秀志、陽田みゆき、
小島桂子、上島文江、菅沼弘春、
村川 孝、杉戸博記、迫田将洋